

# ハナスバ 2017 [5月]



## 音楽は聞くものなのか？

—無音のアート・ドキュメンタリー映画「LISTEN リッスン」から考える—

-2016年、『境界』を『越える』ことを改めて考えたい-

ハナスバ2016は所属や立場を越えて人がつながれば新たなアクションが生まれるだろうと考え、各回さまざまな切り口で出会いと対話の場をつくってきました。

人と人の間の「境界」を「越える」ことは、相手を知ることからまず始まる。

「わたし」は「あなた」の常識に揺さぶられながら「わたし」は「あなた」を知っていく。

「わたし」はすぐ隣にいる「あなた」を思い、「あなた」は「わたし」を思う。

「わたし」を生きているのではなく「あなた」を生きている。

ハナスバ2017は「『あなた』を生きていることができるのか、できないのか」を問い続けます。

「わたし」と「あなた」の間にある

「境界」を考える1年。

### 福井市上映会

**5.13(土)** @福井 北ノ庄クラシックス

昼の部 映画上映 15:00 - 16:00  
※ 終了後、共同監督によるアフタートークがあります。

夜の部 映画上映 19:00 - 20:00  
トークセッション 20:10 - 21:40  
「音楽は聞くものなのか？」  
※手話通訳・要約筆記が入ります。

参加費 各回1,500円(ドリンク付)  
定員 各回40名

### 越前町上映会

**5.14(日)** @だいこん舎

映画上映 11:30 - 12:30  
※ 終了後、おそばを食べながらの交流会があります。  
※手話通訳が入ります。

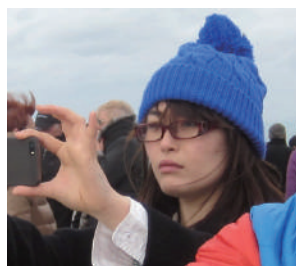
参加費 2,000円(おろしそば付)  
定員 30名

お申し込み・お問合せは裏面に記載

## 映画「LISTEN リッスン」について



耳の聞こえない聾者(ろう者)たちが自ら「音楽」を奏でるアート・ドキュメンタリー映画。楽器や音声は介さない。彼らは、自身の手、指、顔の表情から全身に至るまで、その肉体を余すことなく駆使しながら視覚的に「音楽」空間を創り出していく。出演者は国内外で活躍する舞踏家から、演技経験のない一般の聾者まで多彩な顔ぶれが集まる。彼らは各々に「音楽が視える」と語る。聾のアイデンティティーを持つ二人の共同監督が「新たな音楽」の扉をひらく。



映画監督 牧原 依里



舞踏家 雫境(DAKEI)  
雫境 主宰

聾の親を持つ。小学2年まで聾学校に通い、小学3年から普通学校に通う。大正大学で臨床心理学を専攻。会社に勤めながら映画制作を行っている。2013年ニューシネマワークショップ受講。2014年『今、僕は死ぬことにした』(短編映画)上映。

2000年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、美術博士号取得。大学院在籍中、「舞踏工房 若衆」主宰・鶴山欣也の誘いを受け、舞踏を始める。2000年「雫」旗揚げ。スペイン、韓国、ペルーなど海外でも公演し世界中で舞台上に活動中。

監督: 牧原依里・雫境  
2016年/日本/音声なし/58分